

ますます広がる“公認!” キャンピングカー宿泊ポイント

温泉を堪能してからキャンピングカーでくつろぐ

湯YOU
パーク

ホテルの駐車場で気楽な車中泊

「湯YOUパーク」とは、キャンピングカーユーザーが、「くるま旅クラブ」と契約を結んだホテルや旅館の温泉を楽しみ、寝るときは、駐車場に止めた自分のキャンピングカーを使うという宿泊システムのこと。このシステムを利用すれば、ホテルの宿泊者だけに限定されている温泉でも気楽に入浴できて、しかも宿泊料金は部屋を取るよりもリーズナブル。まさに、キャンピングカーのキャラクターをいかんなく発揮した旅行スタイルだ。このような宿泊システムを受け入れてくれるホテル・旅館は、現在日本全国に100カ所以上。その所在地や連絡先などは「くるま旅クラブ」のホームページを開き「湯YOUパークパートナーリスト」から見る事ができる。今年はその数も約2倍に拡大する予定なので、キャンピングカーユーザーにとっては、快適な宿泊場所がさらに増えることになる。

料金体系は、各ホテルによって微妙に異なるが、平均的な目安として「湯YOUパーク利用料」(駐車代)が2,000円程度。入浴料は1人400円～1,000円程度。なかには、入浴や食堂を利用すれば、湯YOUパーク利用料を無料にするところもある。この湯YOUパークを利用する場合は、原則的に予約が必要。またどのホテルも、基本的には館内の宿泊客を優先するため、その利用客で駐車場が満杯になっているときは、「湯YOUパーク」の利用はできない。しかし、ホテルごとに規約や対応が微妙に異なるため、場合によっては融通を利かせてくれる可能性もある。したがって利用計画を立てたときは、事前に問い合わせを入れてみた方がいいだろう。
<http://www.kurumatabi.com/yypark/list.html>



元湯



露天風呂浮湯

湯YOUパークパートナー
「古牧温泉・青森屋」
■ 住所：青森県三沢市古間木山56
■ 電話：0176-51-2121(予約センター)



道の駅での快適なキャンピングカー泊を約束する

ゆったり駐車スペースにAC電源つき

キャンピングカーユーザーの休息や仮眠における利用率がもともと高いのが、「道の駅」。ここで車中泊を経験したユーザーは9割近くになるといわれる。しかし、道の駅はこれまで“宿泊スペース”として明文化されていなかったため、ユーザーのなかには、施設の管理者や他の駐車車両、あるいは近隣の民家などに気がつかないながら仮眠をとっていた人もいたはず。日本RV協会では、このようなユーザーの便宜を図るため、道の駅などの公共駐車場に、公式に認められたキャンピングカー専用宿泊スペースを設ける「RVパーク構想」を企画してきた。それが昨年より具体化し、夏から年末にかけて日本全国で3カ所のRVパークが誕生した。このRVパークというのは、道の駅などの駐車場の一角に、有料を条件にAC電源供給設備やゴミ処理システムなどを整えたもので、日本RV協会の理念でもある「安心・快適なキャンピングカー泊」を実現するもの。昨年夏に第1号が山口県の萩市に誕生。続いて12月には群馬県・太田市、熊本県・山鹿市にオープンした。これらの施設では、いずれも大型車両の駐車も可能なゆったりした駐車スペースが確保され、施設内もしくは近隣に入浴施設が完備するなど、キャンピングカーユーザーのための様々な便宜が図られている。



RVパークたまがわ



RVパークやまが



RVパークおおた



RVパークおおた



RVパークたまがわ



RVパークたまがわ

食
遊
寝
備
[くるま旅のあそび]
kurumeta-asso-bi



キャンピングカー泊をする前に知っておきたい くるま旅のマナー

- 道の駅や高速道路のSAやPAなどの公共の駐車場で、連泊、長期滞在を行わない。
- キャンプ場以外の公共駐車場で休憩をとるときは、オーニングを広げたり、椅子やテーブル、バーナーなどを車外に持ち出して使わない。
- 公共駐車場の洗面所などで食器や食材を洗ったり、そこから電源を引いてキャンピングカーに接続したりしない。
- 旅行中や移動中に発生した大量の生活ゴミを、公共の駐車場のゴミ箱などに投棄しない。公共駐車場の水道設備を利用した給水はできるだけ控える。
- カセットトイレやポータブルトイレの処理は主にキャンプ場か自宅で。また、公共駐車場の水道設備を利用した給水はできるだけ控える。
- 生活排水用のグレータンクの汚水をその場に垂れ流したり、側溝に捨てたりしない。
- 公共駐車場におけるジェネレーター(発電機)の使用は、他の利用客が休息していたり、近所に民家があるような場所では控える。
- オフ会やクラブミーティングで公共駐車場に集合する場合は、騒音に注意。
- 道の駅や高速道路のSA・PAにある車椅子マークの駐車場には、健康者のみが乗車しているときは駐車しない。
- 無駄なアイドリングによる排気ガスの流出や騒音は避ける。

安全、安心、快適な キャンピングカー泊を可能にするRVパーク 昨年全国に3カ所誕生 さらに拡大する勢い

目の前に温泉、隣りはキャンプ場、海水浴場まで2分

RVパークたまがわ 山口県

山口県萩市に誕生した「RVパークたまがわ」の特徴は、なんといっても目の前に田万川温泉「憩いの湯」があること。冬でも、温泉で温めた体が冷えないうちに自分のキャンピングカーに戻ることができる。また、隣りがキャンプ場なので、トイレの利用や水の補給、食器洗いなどはすべてキャンプ場の施設を使えることも利点だ。「瀬越海水浴場」までは歩いて2分ほど。クルマからビーチサンダル・水着姿で遊びに行くことができる。

駐車スペースは大型輸入車でもゆったりと収まるスペースが確保され、オーニングを出して椅子やテーブルを広げられる。AC電源供給スタンドはコイン式で1時間100円。電源エリアは現在4台分のスペースが確保されているが、もちろん電源のないエリアでのキャンピングカー泊も可能。

食材の調達や買い物も便利で、500mほど離れた「道の駅ゆとりパークたまがわ」まで行けば、新鮮な魚介類から野菜・果物類、肉類からお菓子類、酒類など、ほとんどのものが手に入る。



Information

- 住所：山口県萩市下田万1740-1 ■ 電話：08387-2-0370
- 台数：(電源エリア)4台
- RVパーク使用料：1日(1泊2日)1,000円 ■ 電源利用料：1時間100円
- 入浴施設：敷地内に田万川温泉「憩いの湯」
- ゴミ処理：受付に相談 ■ 予約：原則不要。問い合わせ可

食 遊 備

[くねるあそび]
kurus-neru-asobi

RVパークたまがわを利用した山口県の斎藤さんご夫妻。「今までは普通の道の駅で泊まっていたが、やはり管理者や周りのクルマに気兼ねすることが多かった。それが堂々と泊まれるようになってありがたい。また電源が取れるので、これからは発電機に頼る頻度も減りそう。騒音の低減や空気の浄化に少し貢献できそう」という



セキュリティ万全な空間でB級グルメを堪能

RVパークおおた 群馬県

「RVパークおおた」の特徴は、夜間も一般車が自由に出入りする一般駐車場とは別のクローズドエリアで宿泊できること。暴走族や不審車などの侵入に怯える必要がないので、小さな子どもがいる家族連れや女子だけの宿泊でも安心だ。さらに夜は巡回員が夜通しの警護に当たるのでセキュリティは万全。もちろん、深夜に到着しても、「RVパークを利用したい」という旨を巡回員に伝えれば親切に専用エリアに誘導してくれる。このもう一つの特徴は「ケータリングカー」による食事の供給。ラーメン、焼きそば、カレーなどの定番メニューのみならず、ブラジル料理、ボン太焼きなど、この地でなければ食べられないユニークな食べ物を扱うケータリングカーがRVパークエリア前にずらりと並び様子は、まるでB級グルメフェスティバルの会場に足を踏み入れたかのような。地元名産の大和芋を生かした焼酎など、ここならではの土産ものも豊富。近隣の観光施設も充実していて、植物公園、子ども向け遊園地、歴史を学べる遺跡、テーマパークへのアクセスもいい。

Information

- 住所：群馬県太田市粕川町 701-1 ■ 電話：0276-56-9350
- 台数：5台 ■ RVパーク使用料：1日1,000円(水道利用料金を含む)
- 電源利用料：1時間 100円
(希望者に延長ケーブル貸し出しあり。ただし数量に限りあり)
- 入浴施設：約4km先に温泉 ■ ゴミ処理：大型ゴミ袋500円
- 予約：原則不要。事前予約可

道の駅おおた

の駅長を勤める秋山摩実さん。ケータリングカーによる食堂を思いつuitしたのは、「固定食堂によるメニューの固定化を防ぎ、常にフレッシュなお店や料理を提供したいから」とのこと



立ち寄り温泉、居酒屋に近い日本初の都市型RVパーク

RVパークやまが 熊本県

「RVパークやまが」は、わが国でも初めての「都市型RVパーク」。山鹿市のなかでもいちばんの繁華街に位置し、駐車スペースにクルマを置いてから周辺の飲食店や立ち寄り温泉などを利用したり、芝居小屋などを見物することができる。

RVパークが設置されている建物自体にも数々のグルメコーナーや食料品、衣料品、日用雑貨などの店舗が軒を連ねるので、食材の調達を含め、長旅途中の中継基地としては文句のつけようがない。

隣接する温泉「さくら湯」は、宮本武蔵も入浴したと伝えられる歴史を誇る温泉だが、レトロな装いを残したままりリニューアルされ、町の大事な観光スポットになっている。

Information

- 住所：熊本県山鹿市山鹿1番地(温泉プラザ山鹿 北側駐車場)
- 電話：0968-44-4759(平日) / 0968-43-1829(土日)
- 台数：3台 ■ 駐車料金：小・中型車(車高2.2mまで)1泊最大1,300円
- RVパーク使用料：1日1,000円(ゴミ処理、電源、水道、トイレ使用料込み)
- 大型車料金：2,300円(駐車料金、RVパーク使用料、ゴミ処理、電源、水道すべて込み)
- 電源利用料：1時間 100円 ■ 入浴施設：「山鹿温泉元湯さくら湯」が隣接
- 予約：原則不要。事前予約可



キャンピングカー旅行のフィールドは無限に広がっている

RVパークからさらにキャンプ場へ

オススメ!

北関東・東北のキャンプ場セレクト

羽鳥湖高原レジーナの森

福島県・羽鳥湖畔

レイクレジーナを一望できるレストランや、露天風呂にサウナまで完備した天然温泉を持つ高規格キャンプ場。ペット愛好家のための施設も充実しており、天然芝ドッグランなどのほか、愛犬と一緒に泊まれるコテージやペット用温泉まで完備している。周辺にはゴルフ場、スキー場もあって、スポーツを楽しむにも最適。

Information

- 住所：福島県岩瀬郡天栄村羽鳥高戸屋39 ■ 電話：0248-85-2525
- 施設：○オートキャンプ77区画(AC電源付き20区画) ○キャンピングカー4区画
○コテージ各種 ○売店 ○トイレ ○ランドリー ○温泉(羽鳥湖温泉・彩光の湯)
○ペット用温泉 ○レストラン...他
- 料金：○ノーマルサイト4,000～6,000円 ○電源付サイト5,000～7,000円
○キャンピングカーサイト7,000～9,000円
- 施設使用料：○大人1,500円 ○子供1,000円 ○愛犬1頭目1,000円(2頭目以降500円)



RV Resort 猪苗代湖モビレージ

福島県・猪苗代湖畔

目の前に、風光明媚な猪苗代湖が見渡せる絶好のロケーションに恵まれたキャンプ場。釣りのほか、ゴムボート、ディンギー、カヌー、湖水浴など湖上のスポーツならなんでもできるのが特徴。大型キャンピングカーやトレーラーでも快適に利用できるようにサイトも広く、ダンプステーションなども完備。

Information

- 住所：福島県会津若松市湊町大字赤井字笹山原408
- 電話：0242-94-2052
- 施設：○オートキャンプ80台 ○キャンピングカー20台(電源1泊1,000円)
○バンガロー・コテージ ○売店 ○風呂・シャワー ○ランドリー...他
- 料金：○5m以上のキャンピングカー・トレーラー4,000円
○5m未満・一般車3,000円 ○シニア割引有り(60歳以上50%引き)
- 管理料：○大人600円 ○子供400円

食
遊
備
寝
[くうねるあそび]
ku-neru-asobi



大子広域公園 オートキャンプ場グリーンヴィラ

茨城県・大子町

北関東を代表する設備の充実した高規格キャンプ場。バリアフリーが徹底されているので車椅子などを利用している人でも安心。場内には内湯・露天風呂を備えた温泉「ふれあいの湯」があり、車で2分のところにも立ち寄り温泉がある。徒歩5分のところには、1年を通して利用できる温水プール「フォレスバ大子」がある。

Information

- 住所：茨城県久慈郡大子町矢田15-1 ■ 電話：0295-79-0031
- 施設：○オートキャンプ43区画 ○キャンピングカー7区画(給排水、AC電源20A付き)
○各種コテージ ○売店 ○男女別風呂・露天風呂 ○ランドリー ○ダンプステーション...他
- 施設使用料：○4月1日～11月30日=1サイト5,250円 ○キャンピングカーサイト6,300円。
○12月1日～3月31日=1サイト4,200円 ○キャンピングカーサイト5,250円(場内ペット不可)



有野実苑オートキャンプ場

千葉県・山武市

サイトのたたずまいも露天風呂の雰囲気も、どこか庭園風の味わいを持つ落ち着いたキャンプ場。収穫体験のできる農園があるため、レストランで出される食材などにも新鮮な野菜が豊富。キャンピングカーの受け入れにも熱心なオーナーの気配りで、大型キャンピングカーでも使いやすいサイト設計がなされている。

Information

- 住所：千葉県山武市板中新田224 ■ 電話：0475-89-1719
- 施設：○オートキャンプ90区画(AC電源付き) ○売店 ○野菜直売所 ○トイレ・シャワー
○露天風呂・家族風呂 ○子供プール ○レストラン ○ダンプステーション...他
- 料金：○1区画3,000円 ○露天風呂付きサイト6,000円
- 施設管理費：大人1,000円 ○子供500円 ○犬500円



RVパークはキャンピングカーとキャンプ場を結ぶ「中継基地」

一般社団法人 日本オートキャンプ協会 堺廣明 課長

RVパークが、今までのキャンプ場にできないことを補完してくれる施設であるならば、大歓迎です。いま地方経済はどこも不況の影を引きずっていて、地方自治体が観光行政に力を入れても、なかなか地域全体の活性化を果たせていません。そういうときに、RVパークのようなものが普及し、それによって地域の観光事業が振興するならば、そのエリアの住人にとってはうれしい話ではないでしょうか。キャンプ場にとっても、RVパークを足がかりとして、自分たちのキャンプ場まで足を運んでくれるお客さんが多くなれば、こういう企画を評価するはずですよ。

特に、日本のキャンプ場は、幹線道路からかなり遠く離れた山奥などにあることが多いわけですね。だから、旅の途中に寄る場所として考えると、そこまで行くのに時間がかかる、と敬遠されてしまうこともあるでしょう。しかし、そこに至るまでの「中継基地」としてRVパークがあるならば、そのついでに、少し先にあるキャンプ場にも出向いてみようか、と考える人たちが出てくるでしょう。そうならば、RVパークがキャンピングカーとキャンプ場を結ぶ接点ともなりうる。それを期待したいですね。(談)